コルネリオ会

（防衛関係キリスト者の会）

ニュースレターNo. 147

2018 年 4 月

８１歳の誕生日の決断

－私の信仰に関する自己紹介－

コルネリオ会　会員　海野幹郎

８１歳の誕生日を迎えるにあたり、今までの人生を振り返ってみると自分には人間として大きな欠ける点、欠点があることに気が付いた。それは、信仰を持ってないということだった。

遅ればせながら私は最近になって信仰は人間には必要な大事なものだと思うに至ったのである。
従って、これを機会にキリスト教を私の信仰として受け入れ、受洗しようと決断した。その決断に至る背景と経過を書くと次の通りである。

私は、宮崎県日向市細島にある妙国寺（日蓮宗）の檀家に育ったのだが、父親が途中で日本キリスト教団の会員になり、召天時は久里浜教会でお世話になったので、信仰を持ってなかった私自身は無宗教の状態にあった。昭和３２年防大に入って友人に連れられて行ったのが、久里浜に千葉愛爾牧師が開いていたキリスト教の伝道所であった。結局そこで千葉牧師が私と同じ細島出身であることが判り、更に、細島教会の初代牧師千葉昌夫（千葉愛爾は、次男）を父が覚えていたこともあり、それが縁で涼子と出会い、結婚することになったわけだがその時点では特にキリスト教に興味を持っていた訳ではない。昭和３９年１月２５日、久里浜教会で千葉牧師司式により教会第１号の結婚式を挙げて、それ以降一緒に教会に行くようになったが、いまだに受洗せずに至っていた。

最近になって、軍人でクリスチャンという先輩の信仰について、いろいろ調べてみた。

まず、千葉愛爾牧師については、一緒に生活したことがあるし、説教もいろいろ聞いている。

残念ながらほとんど覚えていないが、今思い出せる説教の一つは、星も月も見えない暗夜の航海で一番頼りになるのが羅針盤だが、人生における羅針盤は聖書だという話だ。

千葉牧師は、人生の半分は、海軍軍人として国家に奉仕し、残りの半分の人生は牧師として久里浜地区のクリスチャン始め多くの人々の信仰生活に大きな働きを残しておられる。その生涯を見るだけで、軍人のクリスチャンとしての１つの模範的な人生を見ることが出来た。

その他、淵田美津雄氏（愛爾牧師の海軍兵学校１期後輩の元海軍大佐で、太平洋戦争の開始時のハワイ攻撃の戦闘機の総指揮官）が、戦後クリスチャンになることを決心し、牧師になって積極的な働きをしたその生涯や、矢田部稔氏（防大１期、元陸将補。「武士道・キリスト教と自衛官」の著書あり。）は自衛官のクリスチャンを受け入れない赴任先の多くの教会を経験しながらも不動の信仰を貫き、コルネリオ会（軍人のキリスト教信者の団体。現在名誉会長。）を通じて、自衛官のキリスト者の中心となり諸活動を積極的に実施し、多くの人に影響を与えている人生等、その他多くの立派な先輩の人生を知ることが出来て感銘を受けた。

内村鑑三の著に「後世への最大遺物」という小冊子がある。これは、私が中学生の頃父親が買ってくれた本であり私の人生の生き方に少なからず大きな影響を与えた本である。後世に偉大な遺物を残すことの出来ないわれわれ凡人は、“後世の人にこれぞというて

覚えられるものは何もなくとも、アノ人はこの世の中にいきているあいだは真面目なる生涯を送った人であるといわれるだけのことを後世の人に遺すこと”が最大の遺物だという結論の本であった。

残念ながら私が子孫に残せるものは何もないし、子供たちの模範となるような立派な生き様を残すことは出来なかったかもしれないが、少なくとも「信仰を持つ」という決断をして受洗をし、最終楽章はクリスチャンとして真面目な生涯を送ったという事実だけは遺したいと思っている。ついでながら、私の家には家憲がある。これは、母の第１回目の命日（１９８３年８月７日）に父親が、兄弟５人に色紙に書いて配ってくれたものである。

それには、次の通り書いてある。

家憲の中で、二つはどうにか守って来れたが、真ん中の“信仰を持て”だけは未だに守れてなくて心残りであった。これで、やっと海野家の家憲に従うことが出来たという満足感もある。

海野家憲

祖先の意思を受け継ぎ、改めて要約して示す

１　親子兄弟仲良くすべし

１　信仰を持て　キリスト教　可なり

１　如何なる些事と言えども国法に触れるべからず

一九八三年八月七日

多美一年記念会に際して

幹郎殿　　父　健一

私は、日本人の精神の中にわずかにＤＮＡとして残っている武士道精神（司馬遼太郎の言）が好きである。私は、武士道精神とキリスト教信仰と共通するところが沢山あると思う。

新渡戸稲造がベルギーの法学者の質問に答える形で書いたのが有名な英語版の「ＢＵＳＨＩＤＯ」（「武士道」）だが、日本人には宗教教育はないが精神基盤に「武士道精神」があるとして武士道精神について詳しく説明しているその本を読んで、感銘を受け、その精神に大きな影響を受けている。台湾の元総督　李登輝氏の書いた“武士道解題”にも感銘を受けている。“武士道と言うは、死ぬことと見付けたり”　という言葉が”葉隠“（佐賀鍋島藩士山本常朝著）にあるが、私の武士道は“ 如何に生きるか、そして、如何に死ぬるかを探求し、実行することと見つけたり”である。

８１歳になったことを機会に、これらの問題を熟慮し、具体的行動の表れとして、キリスト教を信仰として持ち、残りの生涯を心置きなく生きることを決心したのである。

私は、海上自衛官として半生を過ごしたので海上武人だと思っている。従って、武士道精神とキリスト教の信仰を持った元海上武人として残りの人生を送りたいと願い、受洗を決心した。

好きな讃美歌：子供の頃入浴中に父親の歌っていた讃美歌：“・・・刈り入るる日は近し・・・”

好きな聖句：受験時に参考書で覚えた“They that sow in tears shall reap in joy.”

（涙と共に蒔くものは喜びと共に刈り取らん。）

アルゼンチン宣教報告会記録（講演編）

コルネリオ会会員　圓林栄喜

２０１８年２月１０日（土）、東京渋谷福音教会においてアルゼンチン宣教師の在原繁師、津紀子師をお招きして宣教報告会を実施しました。その内容をまとめて皆さんに２回にわたり情報提供いたします。

今回は講演内容について、次回は質疑応答内容について掲載します。

１　はじめに

ただいまご紹介に預かりました在原でございます。御殿場の教会におりましたので、富士、滝ケ原、板妻、駒門といった自衛隊の駐屯地があり、多くの自衛官クリスチャンとの交流もありましたので、コルネリオ会の皆さんとは違和感もなく、仲間のような感じがしています。

エゼキエル書４７章９～１２節をお開き下さい。

「この川が流れて行く所はどこででも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるように

なる。この水が入ると、そこの水が良くなるからである。この川が入る所では、すべてのものが生きる。漁師たちはそのほとりに住みつき、エン・ゲディからエン・エグライムまで網を引く場所となる。そこの魚は大海の魚のように種類も数も非常に多くなる。しかし、その沢と沼とはその水が良くならないで、塩のままで残る。川のほとり、その両岸には、あらゆる果樹が成長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は薬となる。」

私たちが現在奉仕しております、アルゼンチンの国土は日本の７倍、隣国パラグアイは１．２倍あり、その中のミシオネス州は四国と同じ大きさです。人口は１００万人、昔はジャングル地帯でしたが現在は２／３が開拓されています。映画「The Mission」の舞台にもなった場所です。

私は１９８８年に日系人伝道を行なうため家族とアルゼンチンに渡りましたが、その当時奥地まで入植した日本人たちはブエノスアイレスに戻ってきた状況でした。ブエノスアイレスには１万人の日系人がおりました。その７割は沖縄出身の方々です。私たちは奥地ポサーダスに行く予定でしたが、ブエノスアイレスの日系人の皆さんは「おやめなさい」、「奥地へ行っても勝てない」と言われます。奥地は暑い、夏場は４０～４５度にもなります。また、パラグアイからの麻薬の通り道でもあり危険である。さらに、そのころ３人の子供がおりましたが、ポサーダスは世界でも最も子供が誘拐されるような危険な場所でした。

しかし、私は神の兵士です。あなたが行けと言われるところへ私は行きますと主に申し上げ、神に従う決断をしたのです。

２　アルゼンチン宣教に導かれるまで

私たちは、アルゼンチン宣教に導かれるまでに４年間の準備期間がありました。パウロも荒野で訓練を受けましたが、訓練を経ないで、本戦に臨むことはありません。

その期間に私が学んだことは自分に失望することでした。私たちはこの宝を土の器に入れているとあります。エゼキエル書にもありますように、教会は神殿であり、教会はキリストの体です。宣教は宣教地を良くし、うるおしていくことが働きです。それを体感、体得して現地に参りました。神の御心に従わなければ何もありません。ですから、ブエノスアイレスではなく、神の導きに従い奥地へ行ったのです。

私がアルゼンチン宣教の召しが与えられた当時の御殿場の教会は、教会員が４０名、自衛官をはじめ出入りが激しく宣教師を送って大丈夫かという状況でした。神さまからは「日本から最も遠いところへ行け」と言われましたが、なかなか道が開かれませんでした。クリスチャン生活は兵士と同じです。上からの命令に絶対服従することが求められます。

話しは変わりますが、母教会の御殿場教会の設立者である、スウェーデンのアクセルソン師は２年間チベットで宣教している際にチベット動乱に巻き込まれました。クリスチャンが共産党軍に捕まり、公開裁判で殺されていく中、ご夫妻も投獄されましたが不思議な導きで香港までたどり着き、祈りの中で日本に導かれ御殿場にたどり着いた方でした。人格的にも霊的にも非常に素晴らしい宣教師でしたが、徹底して称賛や自分が高められることを否定された方でした。スウェーデンに帰国後は誰からも看取られることなくひっそりと天に召されましたがまさしく彼が望む召され方だったと思います。亡くなられてから彼の働きは評価されますが、宣教には徹底して神に従う器が必要です。

私の場合は、「あなたを選び、召したのはこのわたしである。あなたはこれから、わたしにのみ信頼して従って来なさい。わたしが、あなたを導き、油を注ぎ、力を与えます。必要のすべては、このわたしが備えます。わたしの栄光のために、今よりあなたを用います。わたしに従いなさい。」という御言葉を３回にわたりいただきました。

１回目は山中湖のキャンプ場で一人断食祈祷の最中、アクセルソン宣教師との祈りの中でした。

２回目はKBI（関西聖書学院）での「いやし」のセミナーに参加した際、オーストラリア人牧師の祈りの中でした。

３回目はスウェーデンから一時帰国していた学院の元委員長 F・スンベリーご夫妻との祈りの中で奥様が預言されたものでした。

その後、スンベリーご夫妻に別れを告げ、霊的感動に心震えた私は、「日本での戦いは終わりました」と神の声をはっきり聴きました。その時に、目の前にそびえる巨大な岩のようなものが、「ガラガラ」と音を立てるように崩れる思いがやってきました。「何かが起こった」と確信した私は、家族の住む御殿場に電話をかけ、妻から驚くべき報告を耳にすることになりました。妻の話によれば「昨日、JICA（国際協力事業団）から電話があり、かねて申請していた「アルゼンチンへの移民申請」が受理され、私たち家族は１９８８年１月２２日成田発のアルゼンチン行の飛行機に乗ることになる」というものでした。さらに「在原家５名の飛行機代の全額が、JICA を通して日本の政府から支給される」という驚くべき内容だったのです。神の御心に従ったら「勝てる」という確信を得た瞬間でした。

３　アルゼンチン宣教を通して得られた確信

私も宣教師として３～５年いればいいかと思ったのですが、気づくと３０年が経ちました。日本からも世界中に２５０名の宣教師が送り出されていますが、技術宣教師が多いと認識しています。残念ながら日本の宣教師としての寿命は４年と言われます。異文化ショック、奥様・お子様の病気や精神的な病など様々な理由があります。その中で神の命令を良く聞かず赴くことも大きな原因として考えられます。ミシオネスに導かれたのは御霊の導きがありました。御霊の導きや聖霊の満たしがなければ長続きはしません。

アルゼンチンでの宣教活動が始まってからも、信仰の揺さぶりはありました。ある時、ポサーダスから大河を渡り、パラグアイに行ったときのことです。エンカルナシオンというパラグアイ第２の都市に上陸した際にショックを受けました。汚水が流れ、やせた牛がおり、汚いマーケット、そこに熱風が吹きほこりまみれになりました。

どこに何があるかもわからない、頼るべき人もいません。子どもの教育はどうする。様々な思いの中で、「勝てない」との思いが沸いてきました。

そのような中で、ブエノスアイレスから３５０ｋｍ程離れたコロンという町の教会に導かれました。その教会は５年前には７人の老女のみであった教会でしたがリバイバルがあり５００～６００人の教会になっていました。牧師の部屋に通され、３人の婦人がおり皆聖霊に満たされていました。その婦人の一人が話すには、「日本から牧師が遣わされ、説教するようになり、アルゼンチンの祝福が日本に流れ出るようになる。その祝福の人があなたである。」と言われました。その時、ミシオネス、パラグアイ宣教は主の御心であることを悟りました。

宣教は宣教地で何かをすることなのですが、私が何かをするのではなく私を通して神の恵みを現していくことです。それは日々神の御声に従っていくことであり、軍隊であれば上司の命令に従うことと同じことで、当たり前のことです。

私は日本の祝福のためのアルゼンチン宣教と考えています。現地の人々ができないことを私たちが整えてやること。現地の人々が教育を受け豊かになることが宣教師の社会的責任であると認識しています。命の水が神殿から流れ出し生き物たちを潤したように、私たちが神の命令に従い、神様の恵みがミシオネス、パラグアイの宣教地に伝わることにより、アルゼンチンの中に救われる魂が多く起こされ、さらにはそれが日本に流れて行くことを願いつつ奉仕させていただいております。

（次回に続く）

献金感謝（2017.12.1-2018.3.31）

いつもコルネリオ会を覚えていただき感謝致します。また、2019 年 8 月 15 日（木）～17 日（金）横浜地区で 2019 年アジア大会を開催します。現在、大会に向け準備中です。是非お祈りいただき、参加くださり、そしてお捧げ下さいますようお願い申し上げます。

献金心から感謝します。
今市宗雄、滝口厳太郎、松山暁賢、久保田雄介、
山下和雄、内山義彦・和子、大沼薫、倉松功、
瀬在道晴・米子、柳澤二郎、海野幹郎、矢田部稔、
中野久永、桧原菜都子、圓林栄喜・さゆり、
石井克直、栗田祥子、吉田靖、石川信隆、
黒木綾、長橋和彦、瀬戸重樹、中村純誠

コルネリオ会献金振込先

１．ゆうちょ銀行　コルネリオ会　00130-3-87577

２．三菱東京 UFJ 銀行　ジエーエムシーエフ
　　店番 505 和光市店　口座番号 0385701